

都市再生整備計画(第7回変更)

おとがわ 乙川リバーフロントQURUWA^{せんりやくちく}戦略地区
(地方再生コンパクトシティ)

愛知県 岡崎市

令和3年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォーカーブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	おかげさし 岡崎市	地区名	おかげさし 乙川リバーフロントQURUWA戦略地区	面積	157.2 ha
計画期間	平成	27	年度	～	令和	2	年度
				交付期間	平成	27	年度
					～	令和	2
							年度

目標

大目標 “これからの100年を暮らすまち、夢ある新しい岡崎”～乙川の水辺空間と歴史文化遺産を活かし公民連携して挑む観光産業都市の創造～
 目標①:水辺空間を活かした、安全で安心して、歩き、楽しめる場の創造
 目標②:交通結節点との連携強化・公民連携による中心市街地への新たな交流・にぎわいの創造
 目標③:岡崎の歴史文化を活かした魅力の継承と創造

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針)
 本市は古くは岡崎城の城下町、東海道五十三次の宿場町、多くの寺院の門前町として発展し、大正5年の市政施行以来、隣接町村との合併を経て、平成18年の額田町との合併により、現在の市域となった。
 東名高速道路や国道1号、国道248号といった主要幹線道路が市域を西西南北に走り、また、新東名高速道路の開通もあり、交通の要衝となっている。
 本市では、西三河都市計画区域マスタープランにおいて、区域拠点を有する都市として位置付けられている。また、岡崎市第6次総合計画及び岡崎市都市計画マスタープランでは、主要鉄道駅周辺を都市拠点及び生活拠点と位置付け、各拠点を公共交通ネットワークで結んだ、不必要に拡散しないコンパクトな都市づくりを推進してきた。
 しかしながら、依然として自動車交通への依存度が高く市街地線端部への居住が進み、昭和40年代後半に全国に先立って市街地再開発事業として整備した中心市街地では空洞化が進んでいる。本市の将来人口推計では、全国平均と比較すると人口のピークを迎えるのは遅れるものの、高齢人口の割合は増加の一途をたどり、自動車交通に過度に依存しない持続可能なまちづくりのため、都市機能及び居住区域の適正な立地を図る必要がある。
 そこで、まちの活力の維持・増進、持続可能な都市構造への再構築に向け、公共交通軸を中心とした拠点地域に都市機能の集約及び効率的配置を図り、本市の貴重な歴史・文化的資源の活用を図りながら、都市の人口密度の維持と併せ、生活サービス機能と公共交通の堅持や充実を図るものとする。また、その拠点を都心から各地域まで効率的に配置し、鉄道及び基幹バス等の公共交通ネットワークで結ぶことにより相互に機能を補完し合い、各地域の都市機能を確保する。
 岡崎市都市計画マスタープランにおいて、名鉄東岡崎駅とJR岡崎駅の両拠点を含む都心ゾーンでは、既存ストックを活かした都市機能の強化を取組方針としており、多様な都市機能を集積させるとともに、居住機能の積極的な誘導により、まちなか居住を促進する。また、主要な施設のネットワーク化を検討し、過度に自動車依存することなく市民と来訪者がともに歩いて楽しめるような快適な都市環境の実現を図る。
 特に、東岡崎駅周辺では、商業、文化、交流、福祉等の都市機能を集積させるとともに、本市を特徴づける資源である岡崎城や乙川の水辺空間を活用した水・緑・歴史・文化が息づく都市空間の形成を進める。
 また、岡崎駅周辺では、都心ゾーンの南側の拠点として、文化交流・行政機能を核とした都市機能の集積を図るとともに、来訪者、居住者の憩いの空間形成を進める。
 さらに、基幹バス及びコミュニティバスの運行や歩行者空間の整備により、両駅間や都心ゾーン内の回遊に資するネットワークの強化を図り、市民、来訪者が自動車に過度に依存しなくても暮らせる、利便性の高い快適な都市空間の形成に取り組み、将来にわたり西三河地域の広域拠点にふさわしい持続可能な都心づくりを図る。
 本計画では、東岡崎駅周辺において、都市機能立地支援事業による健康増進施設の整備を行い、乙川の水辺空間を活用して市民の健康増進を推進し、まちの活力の維持・増進及び賑わいの創出を図る。
 また、都市全体における公的不動産の活用の方針として、平成23年3月に策定したファンリタイムマネジメントを視点とした市有建築物管理保全基本方針等を踏まえ、総務省要請の公共施設等総合管理計画を進めていく中で、公的不動産有効活用の視点で、公共施設等の再配置の実現化を図る。また、再配置の実現化が難しい市有財産においては、平成23年9月の市有財産の有効活用に関する基本方針に従い、民間機能への活用などを図っていく。

まちづくりの経緯及び現況

・岡崎市の中心の市街地を東西に流れる一級河川乙川周辺は、公園や各種の観光資源、商業業務施設等が集積しており、かつては西三河の中心と言われる程に栄えた地域であった。しかし、時代の流れと共に、商店街の役割や観光資源の相対的な価値が変化するにつれ、街は縮小していき、この地域を訪れる人も少なくなっている。
 ・中心市街地では全国でも珍しいと言われるほどの広大なスケールをもつ乙川から岡崎城にかけての清流と豊かな水辺空間は、岡崎市の象徴であり、市民が誇りとする貴重な財産である。この広大な空間を、より市民が楽しみ、憩える場所として活用することは、過去40～50年にわたり長らく議論されている。
 ・民間シンクタンクである岡崎活性化本部では、乙川リバーフロント地区に関わりの深い方々や観光の専門家も加わった乙川リバーフロント部会を平成25年度に設置し、課題解決に向けた整備方針の作成作業を行ってきた。また、並行して行われた「乙川リバーフロント アイデアコンクール」には概ね2,500通にも及ぶ市民の応募を頂いている。

【かわまちづくり】

- ①平成27年3月 かわまちづくり支援制度の登録
- ②平成27年11月 愛知県管理河川として初となる都市地域再生等利用区域の指定
- ③民間まちづくり団体主体のかわまちづくり協議会開催 平成27年度5回、平成28年度5回、平成29年度3回
- ④民間による河川空間活用の社会実験おとが！ワンダーランド実施 平成28年度34プログラム、平成29年度(11月末時点)33プログラム

【公民連携まちづくり】

- ①専門家と庁内横断体制でのまちづくりデザイン会議開催 平成28年度5回、平成29年度4回
- ②平成27年度ワークショップ、フォーラムを通じた市民提案、公民連携まちづくり基本構想策定
- ③平成28年度主要回遊動線「QURUWA」を設定(整備を進めている主要な公共空間と既存集客施設を結ぶ動線がQの字に見えること、岡崎城跡の総曲輪(くるわ=城の外周)に重なることからまちづくりデザイン会議にて命名)
- ④平成29年度まちなかの公共空間を公募した民間55事業で利活用してみる社会実験「めぐるQURUWA」の開催
- ⑤平成29年度末乙川リバーフロント地区公民連携まちづくり基本計画策定、QURUWA上の公共空間拠点を公民連携プロジェクトにより繋ぎ、回遊動線の実現をする「QURUWA戦略」として定義

課題

乙川リバーフロント地区を観光産業都市として再生させるためには、次の課題を解決する必要がある。
 (1)乙川、岡崎公園及び都市空間の景観整備が必要(乙川河川緑地・岡崎公園の全体的な景観の改善、水辺空間への照明整備の必要性、楽しく歩ける景観・道路整備の必要性)
 (2)観光拠点としての可能性を引き出すことが必要(新たな観光資源を加え圧倒的な魅力を創る必要性、体験型観光の導入の必要性、観光ホスピタリティーの必要性)
 (3)水辺空間の活用が必要(川で憩う・楽しむ仕掛けの必要性、堤防から河川敷へのアクセスの改善)
 (4)交通インフラの改善が必要(歩行者を重視した道の整備の必要性、名鉄東岡崎駅から乙川の水辺空間へ誘導する道づくりの必要性、水辺空間から中心市街地へ誘導する道づくりの必要性)
 (5)まちづくり、街のリノベーションの促進が必要(様々な可能性を持つ岡崎の中心市街地である康生地区や岡崎の玄関口である東岡崎駅の風格ある整備の必要性、民間主体の協議会等まちづくり団体の結成)
 (6)岡崎の歴史文化の活用が必要(歴史文化遺産の価値や魅力をわかりやすく情報発信する必要性、岡崎城跡を活用した市街地内の回遊性向上の必要性)

将来ビジョン(中長期)

・第6次岡崎市総合計画・・・“地域で支え合い安全に暮らせるまちづくり”、“健やかに安心して暮らせるまちづくり”、“自然と調和した環境にやさしいまちづくり”、“賑わいと活力のあるまちづくり”、“快適で魅力のあるまちづくり”、“未来を拓く人を育むまちづくり”、“将来まで自律した状態が続く都市経営”などを基本理念として『人・水・緑が輝く活気に満ちた美しい都市岡崎』の実現を目指す。
 ・岡崎市都市計画マスタープラン【地域別構想】・・・『目標1 都市機能が高密度に凝縮した便利で快適な都市づくり』、『目標2 地域資源を活かした快適な都市空間づくり』
 ・岡崎市立地適正化計画・・・乙川リバーフロント地区は都市機能誘導区域として設定されている。(平成28年度 立地適正化計画策定及び、都市機能誘導区域の設定)

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

東岡崎駅とJR岡崎駅を含む都心区域においては、区域内の歴史・文化資源を活かしつつ、都市施設と一体的に整備される商業・業務機能、文化・交流機能、医療・福祉機能、行政機能等の複合的な都市機能を積極的に誘導し、将来にわたり本市の顔にふさわしい持続可能な都心づくりを図る。
また、その他の地域においても公共交通軸を中心として医療・福祉・商業等の都市機能を誘導し、生活サービス機能の充実を図り、周辺区域の居住の誘導を図る。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

中心拠点区域に含まれる地域一帯は、物販を中心とした民間商業施設の撤退を受け、最寄品を扱う生活利便機能が不足している。
このことから、区域内にある一団の市有地を活用し、商業機能を中心とした民間施設を整備し、地域住民の生活支援を行うとともに、区外からの来訪者も加えたにぎわいと交流を創出することで、駅周辺の魅力向上や市民生活の質の向上に寄与する。併せて、乙川に近接した地域特性を活かして、市民の健康づくりや交流を推進する機能を整備することで、まちの活力や賑わいの向上に寄与する。
民間事業者に対しては、定期借地権、適用可能な補助事業の活用等により、事業計画の向上の支援を行う。

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

- ・道路事業：中心拠点区域のうち、乙川以北の地区と拠点誘導施設及び交通結節点との連続性を強化する。
- ・公園事業：中心拠点区域の中央に位置する乙川河川緑地等の魅力と求心力を高め、内外から人を呼び込む。
- ・地域生活基盤施設：ペDESTリアンデッキなどの整備により、交通結節点である東岡崎駅と拠点誘導施設、そして乙川リバーフロント地区の賑わいを接続する。
- ・高質空間形成施設：プロムナードの整備などにより、拠点誘導施設をはじめとした中心拠点区域の回遊性を高め、歩いて暮らしやすい生活圏を形成する。
- ・街なみ環境整備事業：良好な景観形成に向けた取り組みを行うことで、歴史文化遺産等の魅力を活用するとともにそれらをも高める。

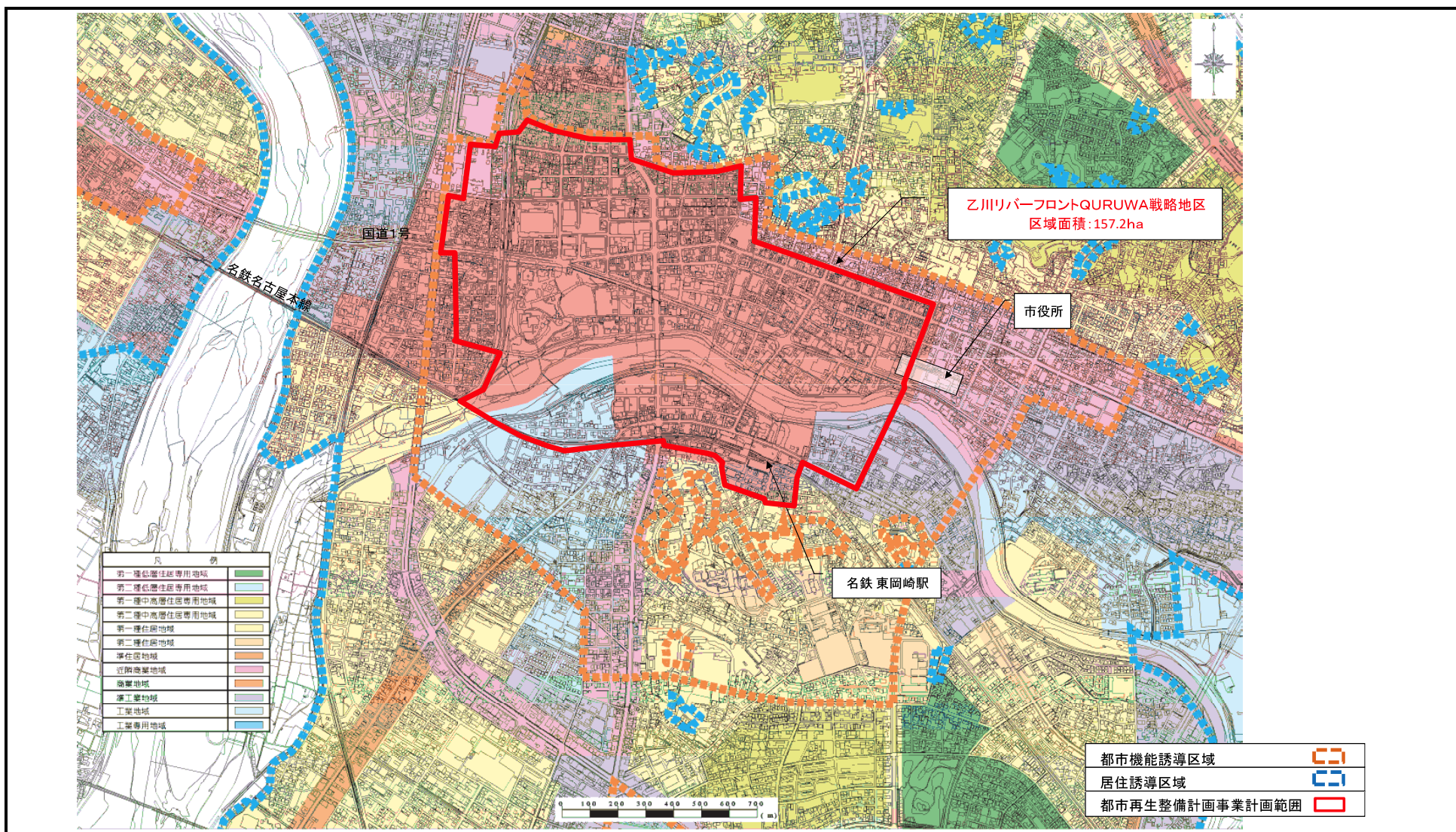
目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
本地区の魅力発揮に関する市民等満足度	%	市民、観光客アンケートによる満足度評価(「だいたい満足」or「たいへん満足」と回答した人の割合)	岡崎の代表的な地区の総合的な魅力発揮・向上に関する市民の総合評価として、満足度を指標とする。	60%	H26	66%	R2
地区中央部の橋梁(歩道、人道橋)を往来する人数	人/日(12h)	週末(12h)における殿橋、明代橋、潜水橋、新入道橋の歩行者、自転車数	来訪者の増加及び乙川左右岸の回遊性向上の指標とする。	3,720人	H26	4,260人	R2
岡崎公園を訪れる観光客数	人/年	岡崎公園における岡崎城入場者数	観光産業の育成成果の指標とする。	20.7万人	H26	24.3万人	R2
東岡崎駅の乗降客数	人/日	東岡崎駅の1日当たり乗降客数	東岡崎駅北口駅前整備及び駅・川・街一体整備の成果の指標とする。	36,594人/日	H26	41,700人/日	R2
QURUWA上の路線価	千円/m2	QURUWA上の主要な公共空間における平均路線価	QURUWA戦略による中心市街地の価値向上の指標とする。	107.8千円/m2	H26	109.4千円/m2	R2
QURUWA上の公共空間を利活用した民間事業活動日数	日/年	QURUWA上の公共空間を利活用した民間事業の活動日数	公民連携による地域の稼ぐ力を高めた成果の指標とする。	1日/年	H26	70日/年	R2

計画区域の整備方針	■基幹事業	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1: 水辺空間を活かした、安全で安心して、歩き、楽しめる場の創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■基幹事業 ・道路: 籠田町線 ・公園: 乙川河川緑地 ・公園: 岡崎公園 ・公園: 籠田公園、中央緑道 ・地域生活基盤施設(情報板): 案内板、サイン ・高質空間形成施設(緑化施設等): プロムナード ・高質空間形成施設(電線類地下埋設施設): 殿橋明代橋線 ・高質空間形成施設(情報化基盤施設) ・街なみ環境整備事業 	<ul style="list-style-type: none"> ○関連事業 ・家康公誕生祭及び消防出初式 ・観光推進事業 ・市民会館連携事業 ・観光噴水整備事業 ・岡崎市QRURUWAプロジェクト(コンベンション施設整備事業等) ・商店街回遊促進事業、公共用地活用事業 ・民間による公共空間利活用社会実験(官民連携まちなか再生推進事業) ・サイクルシェアの導入によるQRURUWA(くるわ)回遊促進事業(地方創生推進交付金)
<p>整備方針2: 交通結節点との連携強化による中心市街地への新たな交流・にぎわいの創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■基幹事業 ・道路: 籠田町線 ・公園: 乙川河川緑地 ・公園: 岡崎公園 ・公園: 籠田公園、中央緑道 ・地域生活基盤施設(情報板): 案内板、サイン ・地域生活基盤施設(人工地盤等): ペDESTリアンデッキ ・高質空間形成施設(緑化施設等): プロムナード ・高質空間形成施設(電線類地下埋設施設): 殿橋明代橋線 ・高質空間形成施設(情報化基盤施設) 	<ul style="list-style-type: none"> ○関連事業 ・名鉄東岡崎駅北東街区商業施設誘致事業(健康増進施設)(都市機能立地支援事業関連事業) ・川の駅・リバーベースホテル誘致事業 ・空き店舗対策事業、公共用地活用事業、商店街回遊促進事業、商店街経営支援事業 ・民間による公共空間利活用社会実験(官民連携まちなか再生推進事業) ・サイクルシェアの導入によるQRURUWA(くるわ)回遊促進事業(地方創生推進交付金) ・「徳川家康公と三河武士」の聖地・岡崎における稼ぐ観光地域づくり事業(地方創生推進交付金)
<p>整備方針3: 岡崎の歴史文化を活かした魅力の継承と創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■基幹事業 ・道路: 籠田町線 ・公園: 乙川河川緑地 ・公園: 岡崎公園 ・公園: 籠田公園、中央緑道 ・地域生活基盤施設(情報板): 案内板、サイン ・高質空間形成施設(緑化施設等): プロムナード ・街なみ環境整備事業 ・高質空間形成施設(電線類地下埋設施設): 殿橋明代橋線 	<ul style="list-style-type: none"> ○関連事業 ・無電柱化推進事業 ・家康公誕生祭及び消防出初式 ・観光推進事業 ・市民会館連携事業 ・公共用地活用事業 ・「徳川家康公と三河武士」の聖地・岡崎における稼ぐ観光地域づくり事業(地方創生推進交付金)
<p>その他</p>		
<p>【まちづくりの住民参加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乙川リバーフロント地区の整備内容については地域住民、地元企業等が参画する「乙川リバーフロント推進部会」を開催し、各部会員の意見を聞きながら進めた。 ・乙川リバーフロント地区では、地域住民、学識者、民間まちづくり団体、河川管理者、自治体関係者からなる公民連携した、かわまちづくり協議会を設置し、乙川での民間主体のかわまちづくりを推し進めている。 ・乙川リバーフロント地区整備に併せて、新たなまちの資源を活かすため、未来のまちづくりの担い手の育成と公民連携したまちづくり体制を整えていく。 ・乙川リバーフロント地区では、まちづくりに関するフォーラム、シンポジウム、ワークショップを通じて市民提案を取りまとめている。 <p>【公民連携事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名鉄東岡崎駅北東街区においては、PRE利活用による事業者公募により、民間商業施設を誘致している。 ・リバーベースは、QRURUWA戦略の拠点とすべく、約1haの市有地を活かしたPPP事業として、シティホテル、商業施設及びコンベンションなどの実現に向けて取り組んでいる。 ・かわまちづくり発信事業や木舟運行事業などは、新たな民間実行委員会と連携して行うが、収益性を検証しながら、民間主導への移行を予定している。 ・「岡崎市歴史的風致維持向上計画(歴史まちづくり計画)」は、平成28年5月19日に認定され、乙川リバーフロント地区は重点区域のうち岡崎城下及び東海道地区の約780haに包含されている。 <p>【官民連携体制】</p> <p>公民連携したQRURUWAプロジェクトの取組内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ①PPP活用拠点形成事業: 北東街区約0.7ha(PRE事業用定期借地商業施設誘致)、太陽の城跡地約0.9ha(計画中、PRE事業用定期借地+PFI、都市型ホテル、コンベンション、リバーベース誘致)、図書館交流プラザらぶら前暫定駐車場約0.6ha(構想中) ②中央緑道P+PFI事業: 乙川人道橋橋詰広場の役割を担う公園施設約0.1haの民間事業者による整備・管理 ③乙川河川緑地かわまちづくり事業: 河川敷や乙川人道橋、堤防テラスなどを利活用した、かわとまちを繋ぐおとがワ! ナンダーランド実行委員会等によるカフェ、木船運行など民間事業の創出 ④良質で使いやすい街路空間再構築事業: 籠田町線の中央緑道を含めた一帯再構築による民間利活用空間となる公園の拡張、康生通り・連尺通りでの社会実験を通じた街路利活用に向けたストリートデザイン策定 ⑤籠田公園・中央緑道利活用事業: 新たに整備される公園での利活用を推進する指定管理や愛護会など民間主体による管理運営 <p>【政策間連携体制】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①庁内の企画、観光、商工労政、景観・歴史まちづくりの主要4部局とまちづくりの専門家(4人)による「まちづくりデザイン会議」を設置、QRURUWA戦略のデザイン・クオリティーをコントロール ②関係部局(23課)とまちづくり団体(3団体)による公民連携調整会議を設置、公民連携事業を調整 ③企画部局が実施するQRURUWA上でのサイクルシェアの導入 ④観光部局が実施する「徳川家康公と三河武士」の聖地・岡崎における稼ぐ観光地域づくりでのQRURUWAコースの設定 ⑤商工労政部局が実施するリノベーションまちづくりによるQRURUWA上の新規ビジネス創業スクール開催 ⑥歴史まちづくり部局での岡崎城跡遺構活用・整備 <p>【事業完了後の継続性、人材育成、維持管理費の低減】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①かわまちづくりでの都市・地域再生等利用区域を併せた河川敷の再整備をはじめとした公共空間の再構築や規制緩和・特例により、民間事業の実施しやすさを高め稼げる空間づくりを実現することでの持続性 ②民間事業の公共空間利活用社会実験を地元まちづくり団体NPOりたやまちづくり岡崎と運営することで、公民連携のノウハウを習得することによる持続性 ③リノベーションまちづくりでのスクールや公共空間利活用社会実験をきっかけとした、沿道経営体(まちづくり団体)等都市再生推進法人候補の組織化による持続性 ④フォーラム、ワークショップによるまちづくりの啓発 ⑤公共空間を利活用した社会実験の実施による公民連携できるパートナーの発掘・育成 ⑥かわまちづくり民間事業の良好な水辺空間の保全・創出のための河川緑地の草刈り、清掃実施による維持管理費の低減 ⑦QRURUWAプロジェクトにてパブリックマインドを持った事業者選定等により、エリアマネジメントにつなげ、収益を公共施設の維持管理費に還元 ⑧公園設計は地元と連携して検討会を実施しながら、完成後の公園管理の意識を高め、管理団体の組織化を実現することで、清掃費等の維持管理費を低減 <p>【民間による公共空間利活用社会実験(民間まちづくり活動促進・普及啓発事業)】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①かわまちづくりの乙川河川敷での民間事業を沿川地先と繋げることで効果を高めるため、堤防道路と河川敷きを一体活用する社会実験 ■乙川河川緑地かわまちづくり事業 ②QRURUWA上の康生通りや連尺通りにて民間利活用を可能とするストリートデザインを考慮するため、沿道商店と街路空間を一体活用する社会実験 ■良質で使いやすい街路空間再構築事業 <ul style="list-style-type: none"> ・実施主体はNPO法人岡崎まち育てセンター・りた、株式会社まちづくり岡崎、株式会社三河家守舎(3団体を都市再生推進法人に指定:R1.5) 		

都市再生整備計画の区域

乙川リバーフロントQURUWA戦略地区(愛知県岡崎市)	面積	157.2 ha	区域	岡崎市康生町他
-----------------------------	----	----------	----	---------



乙川リバーフロントQURUWA戦略地区(愛知県岡崎市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	“これからの100年を暮らすまち、夢ある新しい岡崎” ～ 乙川の水辺空間と歴史文化遺産を活かし公民連携して挑む観光産業都市の創造～	代表的な指標	①魅力発揮に関する市民満足度	(%)	60	(H26年度)	→	66	(R2年度)
			⑤QURUWA上の路線価	(千円/m ²)	107.8	(H26年度)	→	109.4	(R2年度)
			⑥QURUWA上の公共空間を利活用した民間事業活動日数	(日/年)	1	(H26年度)	→	70	(R2年度)

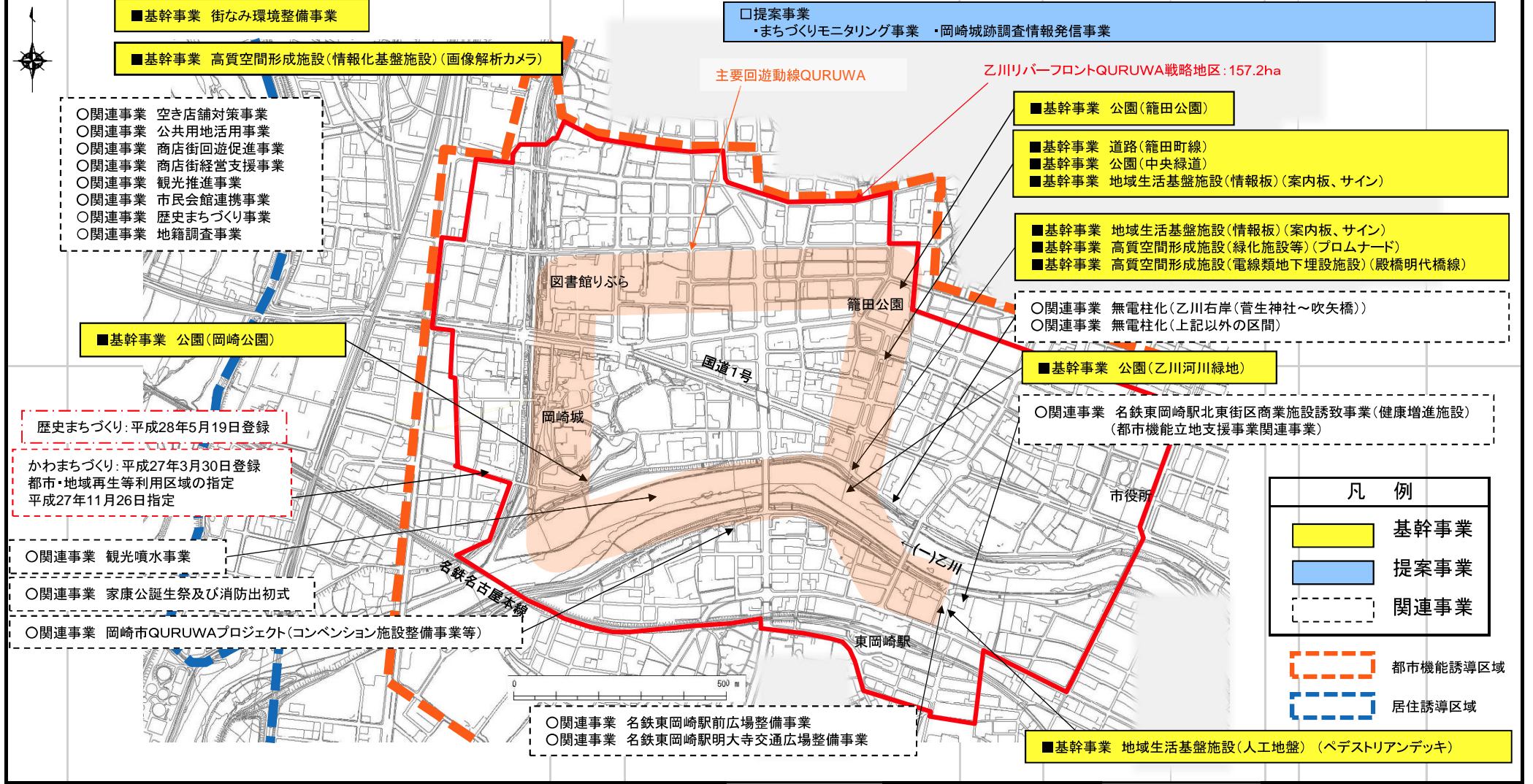
- 関連事業 民間による公共空間を利活用した社会実験(官民連携まちなか再生推進事業)
- 関連事業 サイクルシェアの導入によるQURUWA(くるわ)回遊促進事業
- 関連事業 「徳川家康公と三河武士」の聖地・岡崎における稼ぐ観光地域づくり事業

- 関連事業
 - ・岡崎城跡歴史的建造物等活用整備事業
 - ・モニュメント整備事業
 - ・橋梁修飾照明整備事業
 - ・船着場・船揚場整備事業
 - ・木舟運航事業
 - ・まちづくり講演会
 - ・かわまちづくり発信事業
 - ・かわまちづくり民間連携事業
 - ・かわまちづくり組織化事業
 - ・かわまちづくりマネジメント公募事業
 - ・まちづくり啓発事業
 - ・岡崎城跡調査情報発信事業

■基幹事業 街なみ環境整備事業

■基幹事業 高質空間形成施設(情報化基盤施設)(画像解析カメラ)

- 提案事業
 - ・まちづくりモニタリング事業
 - ・岡崎城跡調査情報発信事業



- 関連事業 空き店舗対策事業
- 関連事業 公共用地活用事業
- 関連事業 商店街回遊促進事業
- 関連事業 商店街経営支援事業
- 関連事業 観光推進事業
- 関連事業 市民会館連携事業
- 関連事業 歴史まちづくり事業
- 関連事業 地籍調査事業

■基幹事業 公園(岡崎公園)

歴史まちづくり:平成28年5月19日登録
かわまちづくり:平成27年3月30日登録
都市・地域再生等利用区域の指定
平成27年11月26日指定

- 関連事業 観光噴水事業
- 関連事業 家康公誕生祭及び消防出初式
- 関連事業 岡崎市QURUWAプロジェクト(コンベンション施設整備事業等)

- 関連事業 名鉄東岡崎駅前広場整備事業
- 関連事業 名鉄東岡崎駅明大寺交通広場整備事業

■基幹事業 公園(籠田公園)

■基幹事業 道路(籠田町線)
■基幹事業 公園(中央緑道)
■基幹事業 地域生活基盤施設(情報板)(案内板、サイン)

■基幹事業 地域生活基盤施設(情報板)(案内板、サイン)
■基幹事業 高質空間形成施設(緑化施設等)(プロムナード)
■基幹事業 高質空間形成施設(電線類地下埋設施設)(殿橋明代橋線)

- 関連事業 無電柱化(乙川右岸(菅生神社～吹矢橋))
- 関連事業 無電柱化(上記以外の区間)

■基幹事業 公園(乙川河川緑地)

- 関連事業 名鉄東岡崎駅北東街区商業施設誘致事業(健康増進施設)(都市機能立地支援事業関連事業)

凡例	
	基幹事業
	提案事業
	関連事業

都市機能誘導区域

居住誘導区域

■基幹事業 地域生活基盤施設(人工地盤)(ペDESTリアンデッキ)